

発達障害の子どもへのアセスメントと支援

-応用行動分析の視点からのアプローチ-

10月22日（土）に「現代的学校教育の課題解決シリーズ 2016」の学び合う仲間による教員研修リレー講座の第8回が行われました。今回は、群馬大学教育学部教授の霜田浩信先生（障害児心理学）による、「発達障害の子どもへのアセスメントと支援-応用行動分析の視点からのアプローチ-」と題して、行動の原因に基づく支援、応用行動分析の目的と原理、アセスメントの例と具体的な目標設定、行動の手がかりとしての環境設定、具体的事例を取り上げての支援方法など、学び合いが展開されました。多数の参加者による充実した研修になりました。



<参加者の感想から>

- 具体的な例が豊富で、とてもわかりやすい講義でした。普段の子ども理解をふりかえる機会になりました。
- わかりやすく実践的な講義を通じて、児童生徒理解は教員にとって大変重要であり、その視点として応用行動分析は有用であることがわかり、特に経験の浅い教員も学ぶ必要があると思いました。
- 行動の原因を子ども本人のせいにならず、環境状況や教員がとったきっかけに原因があるのでは、と考える見直すことはとても大切なことだと思いました。担任する子どもの行動の原因を見直してみたいと思います。
- 具体的にわかりやすい説明をしていただき、次々と学校現場における具体的な課題や支援が頭に浮かんできました。
- 自分が指示を出している言葉や量が適切かどうか、あらためて考え直すきっかけとなりました。何度先生の講義を聞いても、ハッとすることがあります。
- 自分や同僚が悩んだケースにつながる、「あの時、こうしていればよかった」「これからはこうしよう」のヒントをえることができました。